

授業概要

本講義では、音楽、CM、動画、ウェブ・サイト、地図など身近な事象を例に、メディア文化について学ぶ。メディアは、情報の伝達を行なう道具というだけでなく、私たちの経験や価値観を形作り、方向づけるものでもある。つまり、メディアについて考えることは、私たちの日々の暮らし方や考え方、私たちを取り巻く文化がどのように成立しているのかを考えることにもつながるのである。

本講義は、「メディアの不透明性」という考え方を軸に、メディアと私たちの関わりについて、多彩な具体例を用いながら講義する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション：「メディア＝マスメディア」ではありません
第 2 回	インターネットとテレビ：ネットとテレビはどう違って、どう似ているのか？
第 3 回	インターネットの歴史と文化
第 4 回	ソーシャルメディアとK-POP
第 5 回	モバイルメディアと都市文化：イヤホンで音楽を聴くとはどういうことか？
第 6 回	音楽と録音メディア（1）：蓄音機、レコードプレイヤーで「遊ぶ」
第 7 回	音楽と録音メディア（2）：アナログとデジタル
第 8 回	ミュージックビデオ（1）：音楽と映像の関係
第 9 回	ミュージックビデオ（2）：MVのさまざまな表現
第 10 回	写真と映画：人間と映像メディアの関係
第 11 回	メディアとしての〇〇：意外なものがメディアに「なる」
第 12 回	観光とメディア：観光とメディアはどう関わるか
第 13 回	印刷メディア：印刷と近代社会
第 14 回	地図の時空間：地図は何を映しているか？
第 15 回	メディア文化論のキーワード：重要なキーワードの整理と講義の総括
第 16 回	筆記試験

到達目標

身近なメディア文化事象を批判的に捉え、自分の言葉で考えを述べるようになる。
既に姿を消してしまったメディア文化や馴染みの薄いメディア文化について知り、異なる社会、あり得たかもしれない社会に対する想像、共感ができるようになる。

履修上の注意

講義時にコメントシートを配布し、授業の感想や自らの考え、疑問点等を書く時間を設ける。

予習・復習

動画を見る時、本を読む時、SNSを使う時など、日頃から、自分たちを取り巻くメディア文化を観察し、考えたこと、感じたことを記録しておくことが望ましい。
ノートは積極的にとり、キーワードなどを復習しておくこと。

評価方法

筆記試験（60%）

コメントシートおよび授業への参加姿勢（40%）

テキスト

テキストは特に指定せず、必要に応じて講義中にプリント配布やスライド投影を行なう。
参考書はその都度紹介する。